

平成 30 年度 自己評価結果公表シート

令和元年 5 月 25 日 光の園幼稚園

1、本園の教育目標

- ・ 生きる力の基礎を養うため、健やかな身体と豊かな心情を育てる
- ・ 「勇気と感動とやさしさと」をスローガンに、お話の世界に遊び、楽しく表現し、輝くような心と感性に満ちた創造力を育む
- ・ 主体的に周りのもの・こと・ひとに関わりながら自分らしさを伸び伸びと発揮する

(平成 30 年度)

◎ 取り組みに際して念頭においていること

- ・ 五感を使って自然に親しむ
- ・ お話の世界を楽しむ
- ・ 自分の思いやイメージを自由に表現する素地を作る
- ・ 人とのかかわりを大切にして人への信頼感をもつ
- ・ 子どもたちの思いやつぶやきを受け取り保育に活かす

2、30 年度重点的に取り組む目標や計画

- ①身の周りのもの・こと・ひとに主体的に関わろうとする
- ②伸び伸びと自分らしさを発揮する
- ③行事等の見直し

3、評価項目および取組状況

評価項目	取り組み状況
①身の周りのもの・こと・ひとに主体的に関わろうとする	新しいものごとに出合った時の子どもの態度は様々であるが、園での生活によって少しずつ躊躇がなくなっている。初めての感覚や不思議を感じた時の気持ちにもっと寄り添うことで自然と子どもたちのさらなる興味関心を引き出すこともできたように感じる。さらに、遊びの展開についても広げる方向、つながりを考えることはできつつあるが、深める方向に進めることに難しさを感じている。教員同士で話し合う機会も増やしていきたいと考える。
②伸び伸びと自分らしさを発揮する	今日はこれをして遊ぼう、という思いを持ち、子どもたちの素直なつぶやきから遊びが展開するなど自分らしさを発揮できている場面も多くみられた。また、その中で自分たちが何かをすることで喜んでくれる人がいる、という経験をすることもできた。ただ、外部の研修を受ける中で自園を振り返ったときに、日常の中

	にまだまだ子どもの遊びや思いを規制するものがあるのではないか、という視点をもって見直しを図りたいという思いも持つものである。
③行事等の見直し	前年度に引き続き子どもたちに投げかけて日々の活動を進めている。遊びの時間的な保障をはかるなど子どもの負担にならない行事の在り方を模索していることを保護者にもお知らせし、理解をいただきつつある。子どもの遊びの継続や展開を考えるとまだまだ時間的にも空間的にも保障すべきところがあるように思われる。引き続き見直しをはかっていきたいと思う。

4、30年度の目標や計画の総合的な評価結果

前年度に引き続き「主体的に」ということに重点をおいて取り組んできた。教員は子どもたち主体で活動を進めることに戸惑いや悩みを多く持ったが、子どもたちの心情・意欲・態度それぞれに成長が窺われ、よさを実感してもいる。こうした取り組みをさらに保障するために必要なこと（行事の見直しや日常の見直しなど）を模索していきたいと思う。

一方で物事の内容や種類によっては取り組むことをためらう姿も見られた。形が決まっておらず、正解のないものごとを周りの目を気にせず探求していける環境を模索していきたい。

5、今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
①自分の周りで起きるものごとを自分との関係でとらえる	自分の周りで起こるさまざまなことに興味をもてるよう些細なことも話題に取り上げたり興味を持てるような環境を考える。
②じっくりと物事に向き合う	時間や周りの目や評価を気にせず、遊びに没頭できるよう子どもの見方を再考していく。
③日常の遊びや行事等の見直し	普段の生活の中で必要以上に規制していることがないか、行事の取り組みの中で子どもが追われている姿がないかなど引き続き検討していく。

6、学校関係者の評価

特に指摘すべき点はなく、妥当であると認められる。